

平成 26 年度自治医科大学大学院看護学研究科 FD 活動のまとめ

1. 大学院看護学研究科 FD 研究会の実施

- 1) テーマ 「本看護学研究科における看護教育力の育成」
- 2) 日程 平成 27 年 3 月 9 日(月) 9:00~12:00
- 3) 会場 看護学部学習室
- 4) 概要

博士前期課程における TA 等を含めた取り組み状況に焦点を絞り、看護教育力の育成について現状と課題について検討した。

老年看護管理学領域を除く 6 領域の代表者により、取り組みの現状と課題について 1 領域 5 分間の発表の後、前期課程修了生で大学教員となった 4 名(他大学教員 2 名を含む)により、教育力の獲得にかかる経験に基づく提言・意見について 1 人 10 分間発表があった。

休憩後に、職階に応じて編成した 5 グループで、テーマ「本看護学研究科博士前期課程における看護教育力の育成方法」についてワールドカフェによるディスカッションを行った。

- 5) 参加者 29 名(ゲスト 6 名、本看護学部専任教員のうち希望者 5 名を含む)

2. 研究科長と大学院生との懇談会

年 2 回、看護学部校舎内の学部長室において、講義・演習、研究指導、および学習環境について大学院生から意見を聞き、必要な対応を行った。

1) 第 1 回懇談会

- (1) 日程 平成 26 年 9 月 26 日(金) 17:30~18:20
- (2) 参加者 計 16 名(出席率 69.6%)
内訳 前期課程 1 年次 6 名、2 年次 7 名
後期課程 1 年次 1 名、2 年次 1 名、3 年次 1 名

(3) 得られた意見・要望

① 授業および研究指導について

前期課程では、共通科目である「病態生理学特論」、「フィジカルアセスメント特論」、「臨床薬理学特論」の準備状況を高めるために事前課題やテキストの提示について要望があった。また、「病態生理学特論」、「フィジカルアセスメント特論」を関連づけて学びやすくするために順序性を一貫することについて要望があった。さらに「実践看護研究論」ではクリティークについて事前課題があると準備状況が高まると意見があった。

後期課程では、社会人にあわせて集中的な授業展開となっていることや研究計画書の両面印刷が認められたことが評価され、研究計画審査会の結果通知方法について、時間的および経済的な負担がかからないように検討が求められた。

② 学習環境について

水道が研究室にはないこと、絨毯の劣化、扇風機を使っても冷房効率が悪いこと、デスクライトがないことがあげられ、学習環境の改善が求められた。また、非常勤講師の車での送迎を院生が依頼される場合があることについて、事故発生時の保障等の問題から院生に依頼しない方向での改善を求められた。さらに、複写用紙や接待用物

品の補充が遅れていることが指摘され、TAの報酬額と拘束時間について見合っていないと指摘があった。

なお、前年度に指摘があった煙草臭は改善して問題がないことが報告された。

(4) 要望に対する対応

① 授業及び研究指導について

前期課程においては指摘のあった科目については入学前の準備状況を高めるために、事前課題を出すことを検討することになった。

後期課程においては、研究計画審査会の申請については郵送(締切日必着)でも可能として、審査結果は通知日にPDFファイルでメール配信し、後日正式な通知書を直接受け取ることができるように変更した。また、審査結果が「条件付き承認」の場合は、再提出期限を結果の通知日から1か月以内に延長した。

② 学習環境について

絨毯のクリーニングはすでに次年度予算要求をしていたが、以降年1回は実施することとして継続的に予算を要求することとした。また、デスクライトは学生に配分されている消耗品費から必要のある学生が購入することになった。また、冷房が必要な7~8月の授業については、看護学務課で調整して看護学部校舎を使用することとなった。なお、TAについては指導教員および授業の担当教員からTAを利用している院生が目的を理解できるように十分に指導して適切にかかわる必要があることを確認した。

2) 第2回懇談会

(1) 日程 平成27年3月2日(月) 17:00~18:00

(2) 参加者 計8名(出席率88.9%) 内訳:平成26年度博士前期課程修了予定者

(3) 得られた意見・要望

講義・演習については、長期履修等在職中の院生は、学業との両立の困難感とともに院生の都合に合わせた授業時間の配慮が得られたことを高く評価していた。修士論文を完成させるまでの苦労とともに取り組んだ研究を学会に発表する意欲も語られた。統計等の研究方法について具体的な指導や英語論文に関する指導の充実、専門看護師の実践から学ぶ機会を求める意見があった。

学習環境については、研究室の室温を含め、学生の要望に応じて改善されたことが報告された。学内無線LANのパスワードの周知および入学時における留学生に対する修学資金等に関する情報提供の不十分さについて指摘があった。

(4) 要望に対する対応について

① 学内無線LANパスワードについては平成27年度オリエンテーション・ガイダンスにて周知した。

② 今後留学生が入学する場合、学生支援機構の留学生支援のサイトを紹介して、奨学金だけではなく、留学前から留学後の留学生交流情報等を提供することとした。

3. 看護学研究科担当教員間の評価

平成26年度は実施しなかった。博士前期課程新カリキュラムおよび博士後期課程の完成年度(平成27年度)にFD研究会として検討し、今後はFD研究会や研究科委員会において実施する。

4. 科目責任者による授業改善の取り組み

1) 博士前期課程

(1) 共通科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
看護管理・政策論	春山 早苗	授業中の学生の感想・意見および非常勤講師の意見に基づき、次年度の入学時オリエンテーションにおける資料や授業改善内容を検討した。
病態生理学特論	北田 志郎	授業実施中、適宜授業内容について受講生からの意見を聞き、以降の授業に反映させた。非常勤講師の授業終了後に講師からも意見を聴取し、科目全体の構成と授業間の連動について検討した。
フィジカルアセスメント特論	中村 美鈴	38 単位教育課程における授業科目の到達目標に対する受講生の達成プロセスを把握しながら、適宜、授業の際に、授業・演習内容や進め方、高度看護実践への応用性などについて、意見や要望を尋ねた。さらに科目担当者や非常勤講師と共に授業終了後に到達目標や運用方法について振り返りを行い、さらにより良い方法を検討し、次年度以降の授業改善に反映させている。
臨床薬理学特論	大塚 公一郎	最終回の授業後に、受講生より授業に対する感想・意見・要望等を聴取し、また科目担当者からも授業終了後に意見を聞き、次年度の授業改善に努めた。
看護実践研究論	半澤 節子	担当教員 3 名がオムニバスで授業をするため、院生への配付資料、院生の研究テーマや看護実践経験、院生の提出レポートなどを共有している。授業に際し個別のコメントやゼミの進行に役立てている。
コンサルテーション論	永井 優子	非常勤講師とは授業資料等について共有するとともに、担当回終了後には学生の反応と今後の対応についてともに検討している。また、毎回の授業終了時に学生からの質問を確認して、最終レポートにおける学び等を確認し、次年度以降の授業改善に活かした。
看護倫理	小原 泉	前年度の受講生の学修課題の達成状況を踏まえ、非常勤講師と平成 26 年度の教授方法を検討してオリエンテーション資料を作成した。科目責任者が直接担当する授業の際に受講生の意見・感想を聞き、講義の理解度、演習課題の難易度や取り組み状況、有用性や満足度を確認して授業改善に努めた。非常勤講師と適宜情報交換を行い、教授方法を工夫した。
看護継続教育論	本田 芳香	事前学習課題に 38 単位で変更になった教育内容を盛り込み授業に反映させた。授業最終回には、受講生から授業全体に対する意見・感想などをきいたが、概ね高い評価を得ることができた。科目担当者から、授業終了後に、授業内容、進行状況等の課題への取り組む状況について意見をきき、次年度の授業改善につなげる。
地域医療論	北田 志郎	未開講
地域調査法	渡邊 亮一	授業実施中に適宜、科目責任者が受講者から授業内容や授業の進め方などについて意見や要望を聴取し、授業改善に努めた。また、科目担当者からも授業終了後に意見を聴取し、授業改善に努めた。

(2) 専門科目

地域看護管理学領域の老年看護管理学領域および看護技術開発学領域は開講されなかった。
精神看護学領域は旧カリキュラム科目のみである。

領域	科目責任者	授業改善の取り組み
小児看護学	横山 由美	各科目の途中で、授業の進捗や内容について学生に確認しながら行った。また、最終授業終了後に学生の感想や意見、学びについての課題と非常勤講師からの学生の学びの評価や授業の改善点などを合わせて次年度の授業改善に努めた。
母性看護学	成田 伸 野々山 未希子	教育課程が 38 単位になった 1 年次については、院生の学習状況・評価・感想を適宜確認しながら、課題が過重にならないように、調整を行いながら進めてきた。後学期には演習の課題が重なり院生に負担となったため、特に後学期の授業・演習科目の進行について、次年度の改善に向けて調整を行っている。2 年次の科目については、順調な進行を確認し、次年度の 38 単位での実習の実施に向けて、改善策を検討している。
クリティカルケア看護学	中村 美鈴	38 単位教育課程における授業の到達目標に対する受講生の達成プロセスを把握しながら、適宜、授業の際に、授業内容や進め方、高度看護実践への応用性などについて、意見や要望を訪ねた。さらに科目担当者と共に授業終了後に到達目標や運用方法について振り返りを行い、さらにより良い方法を検討し、次年度以降の授業改善に反映させている。
精神看護学 (旧カリキュラム)	半澤 節子	「特別研究」を履修する院生 1 名に対し、主として研究指導教員として指導を行った。研究計画書、倫理審査申請書など研究計画支援委員会に提出する資料の作成を中心に、院生の進捗状況を確認しながら、学習意欲が維持向上できるよう、必要な助言を行った。
がん看護学	本田 芳香	各学科目終了後、授業目標や内容の進行状況及び達成状況について、受講生からの意見や要望をきき、次年度の授業改善に努めた。また担当教員や非常勤講師からも意見をきき授業内容や運用方法を検討した。
地域看護管理学	春山 早苗	今年度開講した演習科目について、学習目標の達成状況および担当教員の意見を踏まえ、次年度の授業改善に向けて検討した。 今年度の修了生に研究活動や研究指導の感想・意見を聞き、次年度の研究指導の改善に向けて検討した。
看護技術開発学		未開講
老年看護管理学		未開講

2) 博士後期課程

(1) 専門関連科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
異文化精神医療論	大塚 公一郎	最終回の授業後に、受講生より授業に対する感想・意見・要望等を聴取し、また科目担当者からも授業終了後に意見を聞き、次年度の授業改善に努めた。
地域保健医療研究論	渡邊 亮一	未開講

(2) 専門科目

科目名	科目責任者	授業改善の取り組み
広域実践看護学特論Ⅰ ヘルスケアシステム研究法	春山 早苗	受講生の課題への取り組み状況および学習目標の達成状況を踏まえて、担当教員間で話し合い、次年度の授業改善に向けて検討した。
広域実践看護学特論Ⅱ クリニカルケア研究法	中村 美鈴	受講生の到達目標に対する達成プロセスを把握しながら、適宜授業中および最終回には、授業内容や進め方について、意見や要望を訪ねた。さらに科目担当者と共に授業終了後に到達目標や運用方法について振り返り後、さらにより良い方法を検討し、次年度以降の授業改善に反映させている
広域実践看護学特論Ⅲ メンタルヘルス研究法	半澤 節子	未開講
広域実践看護学特論Ⅳ 看護教育・管理研究法	水戸 美津子	未開講
広域実践看護学演習 〈ヘルスケアシステム〉 〈メンタルヘルスケア〉	半澤 節子	本科目により 2 つのテーマに沿って院生の研究課題との関連性を検討しながら文献レビューを行い、研究計画を発展させることができたかについては、院生によるばらつきがあると思われる。授業や合同研究セミナーでの発表内容などから目標の到達レベルを把握し、必要なコメントをするよう努めている。また、2 つのテーマの教員間でも必要時情報を共有している。
広域実践看護学特別研究	春山 早苗	個別指導および合同研究セミナーから学生の進捗状況を把握し、学生や副研究指導教員からの意見も得て、研究指導に反映させた。
	成田 伸	個別指導および合同研究セミナーから受講生の進捗状況を把握し、副研究指導教員からの意見も得て、研究指導に反映させている。
	中村 美鈴	個別指導および合同セミナーからの受講生の研究課題の明確化に至るプロセスと状況を把握し、副指導教員と共に定期的に研究指導を行ったことを振り返り、さらにより良い方法を検討し、次年度以降の授業改善に反映させている。
	永井 優子	個別指導および合同研究セミナーから学生の進捗状況を把握し、学生や副研究指導教員からの意見と踏まえて研究指導に反映させている。

5. 意見箱について

投稿された意見はなかった。